墓参から生まれた歌

文人の武蔵野

森鷗外 ⑤

三鷹より路ちかけれど
草高し朝つゆしげし師
の御墓まで

明治から昭和にかけて活躍した歌人与謝野晶子の夫でやはり歌人で大学教員も務めた与謝野寛(鉄幹)の短歌です。作中の「師」は森鷗外、「御墓」は禅林寺の「森林太郎墓」を指しますので、鷗外墓の掃苔を通じて生まれた文学作品の一つとなります。

掃苔という慣習をご存じでしょうか。故人のお墓を訪れ故人を偲び、その人が生きた時代に思いを馳せ、墓石についた苔を掃い清めること。それが掃苔です。

1930年(昭和5年)に開設された当時の三鷹駅(三鷹市教育委員会提供)。この年、与謝野晶子・寛夫妻が鷗外墓を訪ねた

俳句で掃苔と言えば秋の季語であり、お盆(盂蘭盆)の前のお墓参りを意味しますが、季節の墓参や展墓といった言葉にとどまらない広がりを持っています。掃苔で訪問するのは、親族や所属する共同体に関係する墓地とは限りませんので、いわゆる祖先崇拝とは異なります。特定宗教や信仰上の動機と結びついた行動ではありませんので、宗教儀礼とも区別されます。江戸時代には、大田南畝や曲亭馬琴など武蔵野の文人が掃苔を愛好し、掃苔家と呼ばれます。現代では「墓マイラー」という呼称もあり、日本の文化として掃苔は定着しています。

永井荷風、与謝野寛、斎藤茂吉、石川淳、太宰治、松本清張、三島由紀夫、茨木のり子……と、文豪森鷗外をこよなく敬愛する文学者の系譜をみていくと、掃苔家である荷風を筆頭に、掃苔から文芸が生まれる場が継承され、その中心に武蔵野の鷗外墓があると言えそうです。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

■ あすの暦

2月17日(水曜日)
旧 1月6日<赤口>

通日 48
月齢 5.3
(正午)

=東京標準=
日出 6.26 満潮 7.54
日入17.25 20.02
月出 9.24 干潮 1.42
月入22.34 14.14
(中潮)

おすすめの1冊

「文学者掃苔録図書館」

大塚英良さんは、1995年、森鷗外や太宰治ら11人の掃苔の記録をウェブサイトに発表し始めました。以来20年、デザインのお仕事をされながら探墓巡礼の旅を継続し、518人になったところで250人を選び上梓されたのが本書です。装幀も美しく、事典でも文学書でもある一冊です。

(大塚英良著・原書房提供)